

Let's と Don't

東 泰孝

組織には必ず「法」、すなわち、あるルールが必ず存在するかと思います。大学も然り、また、応用薬理学教室も然り、です。この「法」・ルールがたくさんあり、取り決めが多くなると、学生さん達が窮屈に感じすぎるのでダメでしょう。逆に、「法」・ルールは少ないと、学生さん達は自由を謳歌してしまうかもしれません。

当然の前提として、我々教員が考える「法」・ルールは、学生のことを思って、学生に良かれとの思いから作すものなの言うまでもありません。しかしながら、新しく決まった「法」・ルールに対して、学生から怨嗟とまではいかないまでも、不平や不満が起こることもしばしばです。では、学生さん達に関わる「法」・ルールは事前に学生さん達に相談をして意見を聞いておけば、円滑に事が運ぶのでしょうか。そこは、やはり我々教員が正しい見通しと良否の判断を間違わないようにしたいものです。

教育・研究に加えて、組織について考察する5年3カ月です。応用薬理学教室に限って言えば、「法」・ルールはかなり少ない方だと思います。学生さん達はいい意味でノビノビと毎日をすごしているとみています（思い込みかも・・・）。「国将亡必制多」ともありますので、察察な教室運営・組織運営には否定的です。最低限-この見極めが難しいですが-で教室運営ができればいいと思っています。

The mediocre teacher tells,
The good teacher explains,
The superior teacher demonstrates,
The great teacher inspires.

学生さん達には、自覚を促しつつ、Let's を言おうと日々心がけています。愚考しませんが、教員が Don't ばかりを言っていると、その教室運営は硬直化して弾力性がなくなり、組織として下り坂にあると思っています。

動脈硬化を起こさず、寧ろ血栓溶解剤でありたいと願っています。

地中に根をしっかりと張り、大きな木を育てる教育、あるいは、可憐な・綺麗な花を咲かせるような教育、といろいろあるでしょう。私は、雑草・草を育てたいです。